



(1) 第 12 次ネパールツアーを終えて

ツアー団長を務めた高木理事より、以下のようなツアー報告記が寄せられました。

「新たな芽生えを感じたツアー」

上野ご夫妻、桐生さん、菅野さん、そして私の 5 名からなるツアーは、3 月 10 日朝成田を発ち、香港、ダッカ経由で夜半に予定より早くカトマンズ到着。機内で荷物引換券を棄ててしまつて空港出口でのチェックに時間がかかった人もいたが、なんとか無事ネパールに出国。現地世話役のロス氏が待ち受けていると思いきや、姿見えず。しかも予定到着時間をかなり過ぎて現れず、慌てて携帯で連絡を試みたが、全員通話不可。野宿は勘弁と思った時、携帯が鳴りロス氏も探し回っていたと。なんとか曜日が変わる前にホテルに飛び込む。翌朝、ロス氏の助言に従い空港バスに最後にも乗り込み、全員窓際の席を確保し、雲ひとつないヒマラヤ連峰を眺め続けてパイラワまで飛行。前夜の落ち込み気分は一新、気分爽快で 2 時間かけてタンセンへ車で移動し、垣見さん（OK バジ）と合流した。

翌 12 日最初にブッシュルダダ校を訪問。基礎工事が始まった 4 教室の増築現場を確認。総工費は 250 万ルピー（内いきいきフォーラムが 150 万、県が 50 万、地元村人達が 50 万）で、一階部分が 4 月に、2 階部分が 7 月に完成予定。先生方との懇談の場で、まず当法人の支援に対して謝意が表された。そして、1 日 1 時限のネパール語の授業以外全教科を英語で行うようにした結果、生徒数は現在 318 名となったが、3 年後には 600 名まで増やし、卒業生が自立し次の世代を指導できるように、エンジニアリング、IT 技術を習得する工業専門学校としていくとの将来構想が説明された。また、日本の学生がネパールで 1 ヶ月程度英語を実習のためにホームステイすることを受け入れる用意があるとの提案があったので、具体的な実施案の提示を依頼した。

次にジャナカラヤン校を訪問。長年の課題であったトイレ環境整備は、県が 2016 年 4 月までに水汲上げ装置設置を支援（25 万ルピー）してくれることになり、現在同校が抱えている課題はモデル校として 8 年生まで受け入れるための 3 教室の増築と、教員確保のための給与補助基金の増額であるとの説明があった。OK バジが、それらの課題に対して村びと達とどのような話し合いをしているのかと質問したが、回答がなかったので、支援策について具体的な話をするまでには至らなかった。

チャンディカ幼児教室を訪れたのは夕刻にも拘らず、子ども、先生、父兄たちは温かく迎えてくれた。持参した折り紙独楽、ゴム風船に子どもたちは目の色を変えて遊び興じていた。従前からの教員給与補助基金増額の要望に対しては、訪問時は明確に伝えなかったが、OK バジと相談の結果、5 万ルピー増額することとした。

12 日の晩は OK センター泊だったが、カリガンダキ川対岸の村の灯りが一段と増え、太陽光パネルの普及効果かと思ったが、送電線が施設された結果と聞いて、道路同様インフラ整備が近年急速に進んでいることを実感した。

13 日は、まずバヌバクタ校を訪問。公式行事として、桐生さんからの幼児教室生徒 15 名への学用品の授与式（ノート、鉛筆等）と菅野さんからの高校生 16 名に対する年間授業料の半額相当の奨学金の授与式が行われた。行事の準備中に、上野夫人が低学年生の教室を訪れ、言葉も通じないので咄嗟に挨拶代わりに手拍子リズム運動（？）をご披露、これが生徒たちに大受けし、先生が教室に来てもおさまらず、先生から叱られる始末。このリズム運動は、OK バジも大いに気に入りに、以降の訪問先で自らご披露されたりしていた。

午後訪問したジャナウツジャル校では、改築中の 4 教室の進行状況を確認した後、桐生さんが鴻巣南小の生徒たちが書いた手紙を紹介。同校からも鴻巣小の生徒たちへ手紙を書いてもらうことで、継続的な交流を図っていきたくと話された。また、同校から事務室、コンピューター室も改築して 16 年 2 月の創立 50 周年を迎えたいとの願望が表明され、これに対してそれらの工事についても支援していくことを約束した。

14日は新設のシババリ幼児教室を訪問。タンセン市内から川沿いを車で上ること2時間半、日本の里山の村に似たのどかな雰囲気の中にあつた。これまで外国人が来たことがなく、ツアー一行の迎え方にどことなくぎこちなさもあつたが、自ら志願して赴任してきた25歳の校長のもと、4人の先生で教員不足状態をお互いに補完しながら良い学校にしていこうとする熱意を感じた。

今回は例年より訪問先が少なかったため、生徒たちとの交流に色々な試みをしてきた。

一つは、ブッシュルダダ校とジャナカラヤン校で、1時限の図工の授業をした。菅野さんが新宿・市谷小6年生に描いてもらった想像上のネパールの絵をブッシュルダダ校6年生に、3年生が描いた絵をジャナカラヤン校3年生に披露した後、上野さんの指導のもとに顔を描いてもらった。6年生には構図デッサン法をもとに描いてもらったためか画一的な絵となつてしまつたが、3年生には全く自由に描いてもらったことで、大変いきいきとした顔がたくさんできた。これらの絵は後日市谷小の生徒たちに届けられることになっている。日本とネパールの学校間の交流が続いていくことを願っている。



新設シババリ幼児教室

二つ目は、遊び道具を用いない遊びの披露です。先生方から遊び道具がなく、子どもたちを遊ばせるノウハウがないとの話をよく聞くので、古新聞を利用した紙てっぽう遊びをシババリ幼児教室で行つた。上手く出来ると大きな音がするので、子どもたちは結構楽しんでた。また、上述したリズム運動も、いろいろなバリエーションも考えられ、生徒のみならず先生、父兄も一緒になってできるので結構流行るのではないかと思つた。

こうした試みをしながら、毎晩のように今後の支援のあり方や日本の教育について議論百出、刺激的な時間を共有できた有意義なツアーであつたとの言葉をメンバーの皆さんからいただき、大変嬉しく思つた。 高木 邦彦

(2) OK バジ「第11回ヘルシー・ソサエティ賞」授賞式の開催

にゅーす1月号でご紹介した通り、垣見さん(OKバジ)は「第11回ヘルシー・ソサエティ賞」を受賞され、その授賞式が3月25日にパレスホテル東京で開催されました。出席者は600名以上で、著名人が揃つた華やかな会場は、OKバジにとっては別世界だつたようです。式は安倍首相の開会の挨拶で始まりました。

OKバジ関係者として出席したのは、同賞受賞を推薦したNPO2050理事長北谷ご夫妻および日本訪問看護財団理事長の清水さん、OKバジの活動を支援してきた元環境庁長官広中さん、元JOFIC理事長坂田さん、OKバジを支援する会(桐生市)会長山岸さん、ぶりっぢ(市原市)代表荒井さん、世界の子どもたちを護る会(東京)会長波多野さん、そして当法人宇野理事長でした。OKバジは、20年間にわたる村びとへ歩いて届けるボランティア精神が認められ受賞されましたが、知らせを受けた時は受賞すべきかどうか大変迷われたとのこと。決断したのは、日本の人だけでなくネパールの人も含め周囲の人みんなが喜んでくれ、それによってさらに今後の支援活動がやりやすくなり、多くの人の役に立つことができると思つたからとのことです。

27日昼には、当法人主催で受賞されたOKバジとともに歩く花見の会を千鳥ヶ淵で行い、26名が参加。夜には北谷さんらが主催する受賞を祝う会が日本記者クラブの会場で開催され、当法人関係者18名を含め75名が参加しました。会では、第11次ツアーに参加したシャンソン歌手マリBUNKOさんが2曲アカペラで歌つて花を添えて下さいました。30日には、OKバジはじめ受賞者の皆さまは皇太子殿下に拝謁されました。

≪編集後記≫OKバジは、20日まで当法人のツアーに同行いただき、翌21日カトマンズを発たれて、25日の授賞式にご出席。滞日中は公的行事をこなしながらも、予定表は支援者の方がたとの会合で一杯。ツアー中には子どもたちの前で縄跳びの二重飛びを連続10回披露。OKバジのスタミナは何歳代なのでしょう。(編集担当:KT) 暖かや筆ころがして詩眠る 野村喜舟

認定NPO法人 いきいきフォーラム草の根支援

〒113-0023 東京都文京区向丘1-7-8 コミュニティ・スペースほのぼの内

TEL/FAX 03-3816-5346 E-Mail f-kusanone@tcn-catv.ne.jp

<http://www1.tcn-catv.ne.jp/ikiiki-kusanone>